

**令和5年度
宮崎県職員採用試験【大学卒業程度（化学）】**

専門論文試験課題

<課題>

本県では、戦後から高度経済成長期の化学工業の発達や食料品製造業等の立地に伴い、工場等からのばい煙や有機汚濁負荷の高い排水等を原因とする大気汚染や水質汚濁が顕在化していました。また、高千穂町土呂久地区では、戦前から行われてきた亜ヒ酸製造に伴うばい煙が原因とされる慢性砒素中毒症が確認されました。

これらの公害問題は、国が制定した各種法規制などにより改善や救済が進み、中でも河川等の汚濁対策においては、工場・事業場からの産業系排水について法規制よりも厳しい規制基準を適用する「上乘せ規制」の実施のほか、生活排水対策を重点的に行う地域の指定、国や市町村との連携による公共下水道の整備や合併処理浄化槽（トイレからの汚水のほか、台所、風呂、洗濯等により生じる雑排水も処理する、各戸設置の排水処理施設）の整備支援などにより、かなり改善が進んできました。

しかし、ここ数年、有機性汚濁の指標の一種である生物化学的酸素要求量（BOD）に係る環境基準を達成していない水域が河川の一部で見られる状況となっています。

そこで、当該水域における生物化学的酸素要求量に係る環境基準の達成や、県内の他の水域において同環境基準の達成を持続させるため、県及び市町村が取り組むべき施策と事業者及び県民の役割について、本県の特性を踏まえた上で、あなたの考えを述べなさい。